

# 兵庫県SLA会報

No.247

事務局 〒655-0006  
 神戸市垂水区本多聞2丁目16-1  
 神戸市立本多聞中学校  
 TEL 078-784-6310  
 FAX 078-784-6340

## 第 30 回 (平成 30 年度) 読書感想画兵庫県コンクールを終えて

事務局長 井上 智(神戸市立本多聞中学校長)

先月、1月16日(火)に今年度の読書感想画兵庫県コンクール審査会を開催しました。審査員を神戸芸術工科大学 藤井淳一特任教授、同大学 福島美和特任教授、浅場正宏特任教授、神戸市小学校教育研究会図画工作部 中村 豪 部長(神戸市立木津小学校長)、神戸市立中学校教育研究会美術部 西崎 渉 部長(神戸市立大池中学校長)、神戸市立小部小学校 前川芳樹 教諭、神戸市立伊川谷中学校 住田祐子 教諭にお願いし、厳正なる審査の下、別表の通り、受賞者を決定いたしました。審査員の皆様をはじめ、審査会の運営に携わっていただいた事務局各位には紙面をお借りし厚く御礼申し上げますとともに、審査のご講評を紹介させていただきます。

### 審査講評 <総評>

神戸芸術工科大学 特任教授 藤井 淳一

今年度は、各地区から応募された、全212点の作品を審査することになりました。毎年のことですが、指定図書の部門は、51点と少ない中からの選出になっていますが、どの作品も丁寧な作品が多く、しっかりと時間をかけて審査をしました。小・中・高、どの校種においても、いわゆる手抜き作品が全く無く、本のテーマに沿った内容を、個性豊かで独創性を感じさせる表現がなされていました。全国大会でも良い結果が出ることを願っています。まず、小学校部門では、素材が自由に使われており、水彩絵の具とクレパスを中心に、先生方のご指導もあり色彩豊かでバラエティに富んだ作品が数多くありました。紙版、切り絵、はり絵など、自分が描きたい物を、「絵の具以外の素材」も自在に使って、自らの感動を表現していたことに感心させられました。また、多くの色を使っているにも関わらず、よくまとまっているなあという印象が残りました。小学生が本を読み、そのイメージを絵にすることは、本当に難しいと思われるのですが、その発達段階にあった素直な線と色使いで、どの作品をとっても素晴らしいと感じました。中学校部門では、小学校では描くことが出来ない完成度の高い、大人の作品にぐっと近づいた秀作が多く、目を引きました。特に、アニメの風景を模したような、水彩絵の具を自在に使って表現された作品が多かったように思われます。さすがに中学生になると、しっかりと本の中味を読み込んでいるなどと思われる作品も多く、審査も大変さを増し、審査員の先生方も大変ご苦労されたと思われます。技術的には、イラストや風景などを写真のように重ね合わせた、複雑な作品が目立って増えたように感じました。画面の構成ばかりでなく、本の感動を一番強く表現するための、「中心に来る登場人物」の表現がとてもリアルで、強く印象に残りました。高等学校部門では、中学より更に内容を深く読み込み、自分なりの解釈を通しイメージした作品が多くあり、さすがに高校生だと思われる作品に出会い、大変嬉しくなりました。また、今回は、県下各地の多くの学校からの応募があり、表現された内容が独創性もあり安定感もある、充実した作品が多かったという感想です。技術的にも、高校生としての必要なデッサン力があり、且つしっかりと描き込まれた作品が多かったと思います。モダンテクニックやインクによる細密表現など、時間をかけた力作や多様な表現方法で、自らの感動をうまく表現できていたと思いました。こうして、審査も無事終了して、今、強く思うことは、「読書を通しての感動」が、アートを制作するためのきっかけや自らの個性を表現するための素材になりうるということです。この読書感想画コンクールが、それぞれの年代のみなさんの若々しい感性で、今後も、継続されていくことを心より祈念して、総評とします。

**審査講評 <小学校の部>**

神戸市立木津小学校 校長 中村 豪

「本を読むのが大好き!」「絵を描くのが大好き!」今年度も、そんな子供たちの思いのこもった作品に出会うことができました。感動した場面や心に残ったことを画用紙いっぱい描いた作品。読んだお話と自分の生活や暮らしと結びつけながら、想像を膨らませて描いた作品。どの作品からも、「みてみて!あのね…」と、子供たちの声が聴こえてくるようでした。また、描画材料や表現技法にも、学年に応じた工夫がみられました。低学年は、絵具やパス、カラーペン、色鉛筆など、たくさんの描画材料の中から、自分の表したい感じに合わせて選んでいる作品が多くありました。高学年も、描画材料の選択に加えて、にじみやぼかし、グラデーション等の、これまでに学んだ技法を積極的に取り入れ自分らしい作品に仕上げていました。これからも、本との出会いを大切に、「絵に表す」ことを楽しめる子供が増えて欲しいと願っています。

**審査講評 <中学校の部>**

神戸芸術工科大学 特任教授 浅場 正宏

県下各地から応募された35点の作品を審査させていただきました。どの作品も、読んだ本の、印象に残った感動の場面をリアルに描いていて甲乙つけがたい状況でした。中学生ともなればリアルな表現に磨きがかかり、人物は人物らしく、自然は自然らしく、物語の内容が現実みを帯びて伝わってくるような作品が多くなってきているように感じました。優秀賞に選んだ2作品は、そうした物語の場面をリアルに描き伝えるだけでなく、物語に触れた感動を伝える工夫がされていました。様々な場面を画面上でまとめていく構成力、印象的な配色、塗り方、大胆な構図等、卓越した手法で描かれていて、見るものにも感動を与える作品になっていたように思います。全国大会で良い結果が出ることを願っています。良い読書感想画を描くには、良い本に出会うこと。そして文章を読んだら頭の中で物語の状況をイメージしてみること。そしてそのイメージをメモ程度にスケッチしてみましょう。描いたスケッチがたくさん集まったら、画用紙にそれらを利用して絵を描いてみましょう。良い本と出会い感動体験を積むこと。そして、簡単でも良いから描く体験を多く積み重ねること。この体験が良い感想画につながっていくと思います。楽しみながらトライしてみてください。次の皆さんの感想画が感動を呼ぶものになることを期待しています。

**審査講評 <中学校の部>**

神戸市立大池中学校 校長 西崎 渉

審査にあたり、絵画としての造形の美しさが十分感じられる作品であること、読後の思いが素直に表現されている作品であることを念頭に、優秀賞に選んだ4点の作品について感想を述べます。

「また会う日まで」 西宮市立鳴尾中学校3年 笠置朋花さん

主人公の目からこぼれる涙が美しく描かれました。別れるという決断にある悲しさを、薄暗く広がる荒地を去るきつねの後ろ姿が象徴しています。

「絶対気持ちは変わらないから」 三田市立けやき台中学校1年 市川桃子さん

少年ときつねの無垢な愛情の交感があふれるように描かれました。少年ときつねが抱き合う小さなシルエットに、戦争で奪うことはできない愛の貴さと強さを思うことができました。

「思い出アーケード」 姫路市立飾磨東中学校3年 桂楓杏さん

画面下部の遠近法による空間に中央から螺旋的に大きな空間が広がっている画面構成が成功しています。さらに執拗に描き込まれたものが読後に感じた不思議を伝えてきます。

「まいの心」 宍粟市立山崎西中学校1年 福井千夏さん

彩度の高い青が強烈で、大きく描かれた2つの顔による斜めの線が貫いています。その間に象徴的な目や灰色の影のような顔、黄色の仮面などが複雑な心情をドラマチックに伝えていきます。

## 審査講評 &lt;高等学校の部&gt;

神戸芸術工科大学 特任教授 福島 美和

今年も昨年度と同じ 38 点の応募がありました。どの作品もよく描き込んでおり、表現方法も多彩で全体の水準も昨年度以上に高い印象を受けました。

指定読書部門の優秀賞である前田夏星さんの作品は、写真家である著者が体験した極寒の世界の厳しさや美しさを、奇をてらうことなく真正面から捉えた好感の持てる作品でした。もう一人、橋本なづなさんの作品は、時代背景や主人公の心の動きが伝わるような色彩と構成がよく、白バラと剣、操り人形の組み合わせが秀逸でした。

自由読書部門優秀賞の岸部このみさんの作品は、カッと見開いた赤い目の兵士の顔と強い色彩がとても印象的でした。飢えと病気による極限状態、異常な戦争体験がよく表現されていました。もう一人、安田巴香さんの作品は一目見て本のタイトルが分かるような作品でした。中央に猫の料理人を大きく描き、背後に怪しげに光る眼を配した構成、細部まで丁寧に描き込んだ表現など洗練された仕上がりでした。

他の作品も一様にレベルが高く、結果は僅差でした。ただ、昨年同様に応募作品が少なく、これから更に増えていくことを期待して審査評とします。

## 【第 30 回 読書感想画兵庫県コンクール入賞者一覧表】

各部門とも「優秀賞」作品を中央コンクールに兵庫県代表として応募しました。入賞者には、表彰状・メダルを送付し、表彰に代えてさせていただきました。

## ★応募状況

兵庫県内で描かれた作品数	13,596 点	兵庫県審査に集まった作品数	212 点
兵庫県内参加校数	368 校	上記作品児童生徒在籍学校数	128 校

## ◆優秀賞 16 点 (中央コンクールに送付)

区分	部門	氏名	学校名	学年	感想画の題名
指定 図書	小・低	馬場 心菜	神戸市立福田小学校	2	空とぶフランクリン
	小・低	高見 恋	福崎町立高岡小学校	3	フランクリンとゆかいななかまたち
	小・高	鶴田 萌木	姫路市立安室小学校	4	わたしだけの特別ひみつきち
	小・高	久内 舷	宍粟市立はりま一宮小学校	6	守るぞ！森の仲間とぼくのきち
	中 学	笠置 朋花	西宮市立鳴尾中学校	3	また会う日まで
	中 学	市川 桃子	三田市立けやき台中学校	1	絶対気持ちは変わらないから
	高 校	前田 夏星	県立伊丹高等学校	3	呼応する生
	高 校	橋本 なづな	県立明石西高等学校	2	STOP

区分	部門	氏名	学校名	学年	感想画の題名
自由 図書	小・低	名越 江里	神戸市立東町小学校	1	もっともっとあそぼうよ
	小・低	泉川 彩音	神戸市立井吹西小学校	3	おうちみたいなゆめランド
	小・高	矢野 寧々	神戸市立高倉台小学校	4	はげしい たたかい!
	小・高	荻野 晃綺	神戸市立鹿の子台小学校	5	花火があがる木
	中 学	桂 楓杏	姫路市立飾磨東中学校	3	思い出アーケード
	中 学	福井 千夏	宍粟市立山崎西中学校	1	まいの心
	高 校	安田 巴香	県立須磨友が丘高等学校	2	山猫の目にうつるもの
	高 校	岸部 このみ	県立柏原高等学校	2	レイテ島の狂人

## ◆優良賞 16 点

区分	部門	氏名	学校名	学年	感想画の題名
指定 図書	小・低	川上 音樹	宍粟市立はりま一宮小学校	2	本を読んでいるフランクリンと女の子
	小・低	内田 志帆	姫路市立安富南小学校	1	ルナとフランクリンが、まちへむかっている
	中 学	高尾 百花	県立川西緑台高等学校	2	想う
自由 図書	小・低	小川 真輝	神戸市立小寺小学校	1	ゆうえんちにいきました
	小・低	武藤 陸	神戸市立東町小学校	2	空からゾウがふってきてびっくり
	小・高	多田 志成	神戸市立松尾小学校	4	「どくろのスープ」を読んで
	小・高	岩本 祥歩	神戸市立唐櫃小学校	4	鳥の世界へ行ってみよう
	小・高	岩本 彩希	朝来市立枚田小学校	6	命輝く海
	小・高	井上 絵亜	姫路市立高岡小学校	4	このおに相手に勝てるかな?
	中 学	岡野 莉子	神戸市立星和台中学校	3	ホイッパーウィル川の伝説
	中 学	吉村 帆加	神戸市立有野中学校	3	親指姫の居眠り
	中 学	宗接 柚子	宍粟市立山崎西中学校	3	僕の人生 (みちのり)
	高 校	北居 由鈴名	神戸海星女子学院中学校	3	光に向かって
	高 校	松本 茉桜	県立北須磨高等学校	1	My Dad
	高 校	浦川 昇太	県立太子高等学校	2	銀河鉄道
高 校	松原 里穂	県立八鹿高等学校	1	し・ぬ・ほ・ど・す・き	

## ◆佳作 16 点

区分	部門	氏名	学校名	学年	感想画の題名
指定図書	小・低	村上 力仁	神戸市立向洋小学校	1	ドラゴンにのってユニバをつくったよ
	中 学	木本 千代李	西宮市立苦楽園中学校	1	平和と静謐のために
	高 校	中川 七海	県立柏原高等学校	1	明日へ
自由図書	小・低	平野 初奈	神戸市立舞子小学校	1	きょだいなせんぷうきでとんだよ
	小・低	中村 心愛	神戸市立舞子小学校	2	たまごは、どこかな
	小・低	福田 夏響	西宮市立広田小学校	1	かいじゅうたちのいるところ
	小・高	福住 亮二	神戸市立兵庫大開小学校	4	嵐の夜
	小・高	宮本 鉄生	尼崎市立武庫北小学校	6	「ムーン・ジャンパー」を読んで
	小・高	岡田 吏夢	姫路市立高岡小学校	6	つながるいのち
	小・高	松下 伊織	宍粟市立戸原小学校	4	せかいいちおいしいスープをつくろう！！
	中 学	秦 龍之介	神戸市立本山中学校	2	成功した失敗
	中 学	安藤 優花	神戸市立住吉中学校	3	苦しみと激動のさなかで
	中 学	山口 優香	神戸市立住吉中学校	3	愛おしい重さ
	高 校	岡村 美法	県立北須磨高等学校	2	荒波をこえて
	高 校	山本 弥央	姫路市立琴丘高等学校	2	トパアズいろの香気
	高 校	平岡 柚葉	姫路市立琴丘高等学校	2	夜は短し歩けよ乙女

## 第 64 回青少年読書感想文全国コンクール入賞者【速報・兵庫県 S L A 関係分】

部 門	区分	個人賞	学 校 名	学年	名 前	作 品 名
小学校低学年	自由	全国 S L A 会長賞	香美町立射添小学校	1	古川あさひ	やさしいきもち
小学校高学年	課題	全国 S L A 会長賞	養父市立八鹿小学校	5	大畑 優樹	ふるさとをクニマスに返す～「クニマスは生きていた！」を読んで～

入賞者の在籍する学校には、学校賞として「主催者賞」、「サントリー学校賞」が授与されます。

## 【編集後記】

今年度も残すところ、あとわずかになりました。皆様のご協力もあり、第 247 号会報誌を無事に発行することができました。会員の皆様には、事務局員一同心より感謝申し上げます。

この会報も「平成最後の会報」となります。次年度、次元号においても、引き続き、本協議会の運営に対し、ご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。